

# 2026 WORLD ROWING CHAMPIONSHIPS

## REPORT 4 (8/26,27)

大会3日目の8月26日(水)は、M1x(櫻間 達也 選手(NTT東日本))の予選(Heat)と、W2-クルー(米川志保 選手(トヨタ自動車)、高野 晃帆 選手(関西電力))のFinal Cが行われました。両クルーとも力の限り世界の強豪に挑み、見ごたえのあるレースを展開しました。

### M1x 予選(Heat)

スタートからノルウェー、パラグアイ、ルーマニアが飛び出し、ウズベキスタン、日本が追いかけて、さらにソマリアが付いていく展開でレースが始まった。日本は序盤5位だったが、各クルーのスタートスプリントが落ち着いてきたところから徐々に前との差を詰め、500mの通過はノルウェーが飛び出し、2位ルーマニア、3位ウズベキスタンと続き、パラグアイをかわした日本が4位に浮上。1位ノルウェーとの差は8.15秒だが2位ルーマニアとは3.3秒差と、着順での準々決勝(Quarterfinal)進出ラインは十分射程に入れレースを進める。第2クォーターに入り間もなくの600m地点でウズベキスタンに並びかけ暫く並走し750m地点で3位に浮上。2位ルーマニアとの差は約12mの差。1000m地点では、1位ノルウェー、2位ルーマニア、そこから3.13秒遅れて3位日本、4位ウズベキスタン、5位パラグアイと続く。

第3クォーター、2位ルーマニアに3位日本が何度も追いつこうとするが、差は中々詰まらない。しかし置いて行かれる流れでもない。付かず離れずを繰り返し、1500mでも2位ルーマニアとの差はほとんど変わらず3.27秒差。ラストクォーター、日本がさらにペースを上げわずかに差を詰めるがルーマニアもレートを上げ応戦しそのままゴール。1位ノルウェー、2位ルーマニアが着順で準々決勝(Quarterfinal)進出を決め、3位日本、4位ウズベキスタンまでが各組2位以内以外のタイム順で準々決勝(Quarterfinal)進出を決めた。





着順での Quarterfinal 進出は決  
められなかったものの、37クルー  
中18番目のタイムで Quarterfinal  
進出を決めたM1x櫻間選手(NTT  
東日本:写真手前)

## W2- Final C

スタートから各国トップスピードに乗せる。その中でも南アフリカが飛び出し、中国、スペイン、スイス、ブラジル、日本と続く。日本は1位南アフリカと8.19秒差の6位で500mを通過。第2クォーターも必死に前を追いかけるが、じりじりと離される。1000mの通過は1位南アフリカとは14.53秒差、また5位のブラジルとは3.23秒差。何とかここは追い付きたい。

第3クォーター、日本は必死に前を追いかけて5位ブラジルとの差をじりじりと詰め始め、1500m地点では1.73秒差とし、ラストクォーターへ。日本はそのままの勢いでブラジルに並びかけ、1600m地点では捉えたかに見えたがブラジルも必死のスパート。激しいスパートの応酬となるがポジションは変わらずゴール。結果は1位から、南アフリカ、中国、スペイン、スイス、ブラジル、日本の順となり、日本は全体18位で大会を終えた。



ゴール直前、最後の最後まで力を  
振り絞るW2-クルー(写真左から)B  
高野選手(関西電力)、S米川選手  
(トヨタ自動車)



8月27日(木)

M1x櫻間選手(NTT東日本)はで Quarterfinal に向けた調整を行いました。大会も週末のクライマックスに向けたアレンジが進められております。



MAXヘッドコーチとのやり取りもリラックスした様子の櫻間選手(NTT東日本:左上)。  
練習時間帯も込み合うボスバーン(右)。



国際審判員の栗山さん(右から2人目)が、審判の一員として世界最高峰の大会を支えてくださっております。



アスリート委員選挙  
が行われております。



各種目の決勝レースに向けてメディアチームも増強です。  
レース時自転車伴走は禁止となります。コーチシャトルが運行されます。  
左の写真は、放映用のカメラを積んだモーターです。

#### 【コーチミーティング概要報告】

2028年ロサンゼルスオリンピックに向けた競技スケジュールやクオリフィケーション、そしてロサンゼルスオリンピック後のランキングシステムについて説明がありました。

特に印象的だったのは、World Rowingが「より多くの選手が、より多くレースに関わり、ローイングをより魅力的な競技にしていこう」という方向を明確に打ち出していることです。「よりエキサイティングなレース」「選手により多くの機会」「プログラムの柔軟性」などがキーワードとして示されておりました。

さらに2028年ロサンゼルスオリンピック以降は、世界選手権や大陸選手権、国際大会をつなぐランキング制度の導入も検討されているようです。

つまり、これからのローイングは、「オリンピックのために世界選手権を目指す」だけではなく、年間を通じて世界のどこで、どのレースに出て、どんな結果を積み重ねるのが、より重要になっていく可能性があります。

ワールドローイングは、競技の「見せ方」と「戦い方」の両方を変革しようとしています。これは、日本のローイングにとっても新しい挑戦のスタートになると感じました。

## 8月28日(金)スケジュール

現地時間 13:42 (日本時間 20:42)

M1x Quarterfinal 4

櫻間 達也(NTT東日本)

- 1 日本
- 2 ハンガリー
- 3 フランス
- 4 アメリカ
- 5 ルーマニア
- 6 クロアチア

※1～3位以内がSemifinalに進出



正念場です。皆様の熱いご声援よろしくお願い申し上げます。